

UBRJ スペシャルセミナー IN 鹿児島



2020年3月1日(日) 16時-17時30分 (開場: 15時30分)

「私の旅した世界の国境 (ボーダー)」

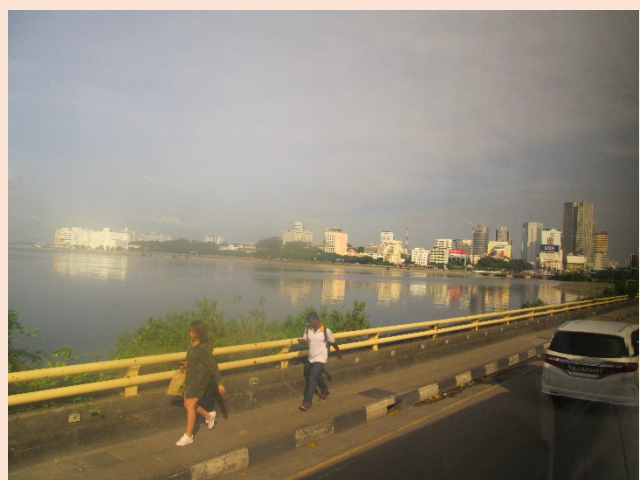
報告: 狩野正一郎 (ラ・サール学園)

司会: 岩下明裕 (北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター/鹿児島大学国際島嶼教育研究センター)

場所: 鹿児島大学総合教育研究棟5F 国際島嶼教育研究センター会議室

主催: 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 境界研究ユニット (UBRJ)

後援: 鹿児島大学国際島嶼教育研究センター



報告者プロフィール

狩野正一郎 (かのう・せいいちろう): 1943年、佐賀に生まれるも東京育ち。早稲田大学教育学部地理歴史学科を卒業後、1968年からラ・サール学園社会科教諭(地理)として教鞭にたつ。授業の合間をぬって世界を旅し、登山にいそしむ。訪問国は50か国に及ぶ。特に印象に残っている経験は、死海で浮かび、74歳でキリマンジャロに登頂したこと。

報告のあらすじ

世界の激動をその目で見て歩いてこられた狩野先生に、時代を越えた国境(ボーダー)の話を自在にお願いしています。冷戦時代の東ヨーロッパ、フランコ時代のスペイン、サハリン沖でソ連軍に撃墜された大韓航空機事件、イスラエルのヨルダン西岸にまつわるエピソードや体験をお話いただく予定です。

問い合わせ: 岩下 (iwasi@slav.hokudai.ac.jp)

